資料提供

令和　２年　５月１２日

担当課	文化振興課
担当者	前田、清水
電　話	(073) 435－1194
内　線	3018

和歌山市指定文化財の新指定等について

このことについて、和歌山市文化財保護審議会からの答申を受け、次のとおり５件の文化財資料が、和歌山市指定文化財として新たに指定されました（令和２年５月１２日）。これにより、和歌山市指定文化財の件数としては、これまでの６５件から５件増えて７０件となります。

なお、新指定文化財となったヘンリー杉本作日系人収容所油彩画は和歌山市立博物館夏季企画展「ヘンリー杉本の世界」にて令和２年７月４日から８月２３日まで、駿河屋菓子木型は和歌山県立近代美術館春企画別展「もようづくし」で令和２年４月２５日から６月２８日まで、和歌山市立博物館ホール展示で令和２年７月４日から８月２３日まで展示します。

※ 企画展等の日程は新型コロナウィルスの状況により変更されることがあります。

名　称	種　類	員　数	所有者	寄託先
駿河屋菓子木型（するがやかしきがた）	有形民俗	167 組　63 点 13 冊	和歌山市 (和歌山市立博物館)	－
ヘンリー杉本作（すぎもとさく） 日系人収容所油彩画（にっけいじんしゅうようじょゆさいが）	絵画	36 点	和歌山市 (和歌山市立博物館)	－
十一面観音立像（じゅういちめんかんのんりゅうぞう）	彫刻	1躯（く）	歓喜寺	和歌山県立博物館
阿弥陀如来坐像（あみだにょらいざぞう）	彫刻	1躯（く）	善楽寺	－
阿弥陀来迎図（あみだらいごうず） 附（つけたり）　桑山重晴寄進状（くわやましげはるきしんじょう）	絵画	1幀（てい） 1幅（ぷく）	総持寺	和歌山市立博物館

新指定１．駿河屋菓子木型　１６７組６３点１３冊

～ お殿様の愛したお菓子たち ～

江戸時代を通じて紀州徳川家の御用菓子商を務めた駿河屋に伝来した菓子木型です。紀州藩の藩政を編纂した『南紀徳川史』や江戸時代後期の地誌『紀伊国名所図会』にも藩からの御用が頻繁であったとの記載がみられます。これらの菓子木型の中には裏面に墨書がみられるものがあるだけでなく、その当時に作られた（あるいは後世に編纂された）菓子の見本帳（絵手本）とも照合することができ、現代まで含め１６７組・６３点の菓子木型のうち、５０組・１８点は藩主の命で作られたことがわかっています。このように、大名に命じられて作られた江戸時代の菓子木型が、絵手本を伴ってこれだけの規模で一括して現存しているという事例は全国的にもあまり例がありません。

絵手本

菓子木型（和歌の浦）

新指定２．ヘンリー杉本作日系人収容所油彩画　３６点

～ 太平洋戦争の影・日系人収容所の日々 ～

ヘンリー杉本（杉本譲／1900～1990）が描いた日系人収容所を題材とする絵画群です。アメリカで画家として認められ始めていたヘンリーは、太平洋戦争が勃発すると日系人収容所に送られましたが、そこでの日系人収容所の生活をリアルに描きました。これらの絵画はのちに戦争史の一端を示す「ドキュメンタリー絵画」としてアメリカで高く評価されているだけでなく、和歌山の移民史を紐解く資料としても価値の高いものであると考えられます。

ヘンリー杉本「息子の負傷」My Son Hurt

新指定3. 十一面観音立像　1躯

～ エキゾチックな平安時代前期の観音様 ～

市内禰宜の歓喜寺に伝来した十一面観音立像です。針葉樹の一木造りで、肩を張って腰を絞った緊張感のある立ち姿や、大波と小波を繰り返し、鋭く表現した翻波式と呼ばれる衣の表現は平安時代前期（９世紀～１０世紀）の彫刻に見られる特徴です。和歌山市内の平安時代前期の彫刻としては慈光圓福院の十一面観音立像（重要文化財）と紀三井寺の重要文化財の仏像群が確認される程度で、紀ノ川下流域に伝来した数少ない重要な作例といえます。

新指定４. 阿弥陀如来坐像　１躯

～ 中世の紀伊の国の人々の祈りの華 ～

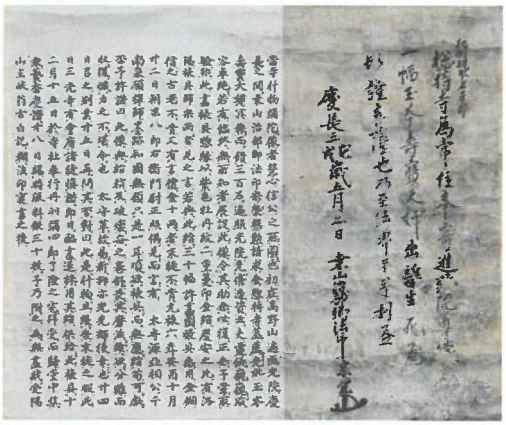
市内金谷の善楽寺に伝来した平安時代後期の阿弥陀如来坐像です。緊張を解いた穏やかな作風は平安時代後期の定朝様式に基づくものですが、像の背中に窓を開けて内部を刳る（乾燥による干割れを防止するため）という古い技法が使われていることなどから、都における造像とは一線を画した紀伊国在地仏師の手による製作と考えられます。また、両脚部裏側には元応２年（1320）の修理銘があり、願主の定心のほか、紀・那賀・伴といった紀の川流域の有力氏族が修理に関わったことが記されており、紀伊国における中世の信仰の広がりや、地域史を物語る重要な作例といえます。

新指定５．阿弥陀来迎図（あみだらいごうず）　１幀（てい）　附（つけたり）　桑山重晴寄進状（くわやましげはるきしんじょう）　１幅（ぷく）

～　亡き人を極楽浄土へ　　和歌山城代桑山重晴の寄進状を添えて　～

市内梶取（かんどり）の総持寺（そうじじ）に伝来した阿弥陀来迎図です。阿弥陀如来の住む極楽浄土に功徳（くどく）を積むことで往生（おうじょう）できるとする「浄土信仰」は源信（げんしん）(942～1017)により平安時代中期に広まったもので、「阿弥陀来迎図」は阿弥陀如来が死者を迎えに来た場面を描いたものです。和歌山市内に残る数少ない鎌倉時代の絵画資料であるだけでなく、豊臣秀吉の弟である羽柴秀長の家臣で、和歌山城代を務めた桑山重晴が母の菩提を弔うために高野山遍照院（へんじょういん）から譲り受け、総持寺に寄進したことを記した寄進状が伴っており、伝来経緯を知ることができる点でも重要です。

阿弥陀来迎図



桑山重晴寄進状